

大川・堂島川・土佐堀川に架かる橋

— “水都”大阪の中心地中之島一帯に架かる橋梁群



顕彰碑

大阪の橋は、古い歴史を秘めている。歴史は橋の魅力を高め、人々の橋への愛着を深くする。市内で数多く建立された橋の記念碑は、人々の橋への鎮魂の碑でもある。

しじみ
蜷橋



蜷川(曾根崎川)とそこに架かる橋は、近松門左衛門の「曾根崎心中」や「心中天網島」などの重要な舞台となっている。「蜷川」の名は、改修で川幅が半分になった「縮川」の転訛だともいわれる。蜷橋(堂島橋)は、蜷川と現在の御堂筋が交わる辺りにあったとされる。

しんまち
新町橋



西横堀川の橋のひとつ新町橋は、当時の代表的な歓楽街として知られた新町への通路として架けられていた。江戸時代の新町は大変な賑わいで、井原西鶴の「好色一代男」のほか、近松門左衛門の“世話物”にもここを舞台にしたものが多い。

えいたい もんひ
永代橋・門樋橋



江戸時代、京町堀川と阿波堀川の間を開削された海部堀川の屈折部は入堀のようになり、永代浜と呼ばれ干魚の荷揚場や市場で活況を呈していた。永代・門樋の両橋は、堀川の開削と同時に架けられた。

ざごぼ
雑喉場橋



京町堀川と江戸堀川に挟まれた西端の地は“雑喉場”と呼ばれ、江戸時代から昭和初期まで大阪人の食生活をまかなう魚市場があった。木津川の分流であった百間堀川に架けられていた雑喉場橋は、雑喉場と対岸の江之子島を結ぶ重要な橋であった。



都市の橋梁は特にまたその美観に
しばしば積極的に
働きかけるという点を忘れてはならず、
近代的都市美への案内役でなければならない。

(元大阪市助役 故 堀 威夫氏の言葉より)



大阪市建設局

〒559-0034 大阪市住之江区南港北1丁目14-16 大阪WTCCビル